

## 『新編天主実録』 訳注（四）

石 井 道 子・永 富 青 地

### 【概要】

本訳注は、2017年3月、2018年3月および2019年3月刊行の『人文社会科学研究』第五十七号、第五十八号、第五十九号に掲載された「『新編天主実録』訳注（一）」、「『新編天主実録』訳注（二）」、「『新編天主実録』訳注（三）」の続編である。『新編天主実録』の作者であるイエズス会士ミケーレ・ルッジェーリ（Michel RUGGIERI, 中国名羅明堅、1543～1607）に関しては、「訳注（一）」の「はじめに」を参照されたい。本訳注は、本号において完結する。なお、本訳注は、『新編天主実録』の全文に対する訳注としては、世界初の試みである。博雅のご示教を期待したい。

### 凡例

- 一、『新編天主実録』および、同書の著者であるイエズス会士ミケーレ・ルッジェーリ（Michel RUGGIERI, 中国名羅明堅、1543～1607）に関しては、『人文社会科学研究』第五十七号掲載の「はじめに」を参照されたい。
- 二、本書と、その改訂版である『天主聖教実録』との相違に関しては、本訳注の【校異】においてそのすべてを挙げておいた。
- 三、『新編天主実録』とマテオ・リッチ著『天主実義』の文との間に明らかな継承関係がみられるものについては、本稿の【参考】欄において指摘してある（ただし、今回の訳稿においては、『天主実義』の文との間に明らかな継承関係がみられるものは存在しない）。
- 四、今回、末尾に収録した「祖伝天主十誡」および「拝告」は、現在『新編天主実録』の後に附されてはいるものの、版型および版式からして『新編天主実録』とは別の出版物である。しかしながら恐らくはルッジェーリによって布教のために使用された宣伝用のビラであり、中国布教史上において一定の価値を有するものと考えられるため、「附録」として収録することとしたものである。
- 五、注釈のうちヨーロッパの思想・文化およびキリスト教の教義に関するものは、他の注釈と区別して、各項ごとに【備考】にまとめて述べておいた。また、そこにおける聖書からの引用は原則として新共同訳に従い、出典を英語略号で記してある。略号は以下の通り。  
出エジプト記 Ex. 申命記 Deut. 詩編 Ps. 箴言 Prov. マタイによる福音書 Mt. ヨハネに

よる福音書 Jn. ローマの信徒への手紙 Rom. エフェソの信徒への手紙 Eph. ペテロの手紙一 1 Pet. シラ書 Sir.

また、以下を参照、および日本語訳使用。

『改訂版 カトリック教会文書資料集』A. ジンマーマン監修、浜寛五郎訳 2002年改訂  
5版 エンデルレ書店

本稿の構成は以下のとおりである。

1. 天主十誡
  2. 解釈第一面碑文
  3. 解釈天主第二碑文中有七条事情
  4. 解釈僧道誠心修行升天之正道
  5. 解釈浄水除前罪
- 附録. 祖伝天主十誡  
附録. 拝告

## 1 天主十誡（天主の十誡）

### 【校異】

『天主聖教実録』は「天主十誡」を「天主十誡章」に作る。

僧曰、教人正道者有二事。一者十誡、二者奇教。若欲知此誡者、必先聞其喻理。彼為帝王者立之律令、治理万民、使之遵守、則国平治。若天主為普世之主、創立法度、頒行天下、使世人遵守、名曰十戒。人欲為善、一則皆当奉敬天主、二則当和順乎四海之人。天主因欲教人、故立碑二面。第一面之碑文有三条之事、惟奉敬天主而已。第二面之碑文有七条之事、惟在和睦世人而已。

### 【校異】

『天主聖教実録』は「僧曰、教人正道者有二事」を「天主教人正道者有二事」に作る。

『天主聖教実録』は「二者奇教」を「二者勸諭三規」に作る。

『天主聖教実録』は「惟奉敬天主而已」を「奉敬天主」に作る。

『天主聖教実録』は「惟在和睦世人而已」を「和睦世人」に作る。

### 【現代語訳】

僧が言った、「人を教える正しい道には二つの事が有ります。一つ目は十戒で、二つ目はすばらしい教えです。もしこの誡めを知りたいのなら、必ず先ずそれを道理にたとえるのを聞かなければなりません。あの帝王たる者は法律を制定し、万民を治めるのに、それを遵守さ

せるならば、国は平和に治まります。もし天主が世界中の主となられ、おきてを創立され、天下に分け与え、世の中の人に遵守させるならば、名付けて十戒というのです。人が善をなそうとするなら、まず皆が天主を敬い奉るべきで、次に天下の人と仲良くすべきなのです。天主は人々を教えようと望まれたので、二面の碑を立てられました。第一面の碑文には三条の事が記されていましたが、それはただ天主を敬い奉るべきだということだけでした。第二面の碑文には七条の事のことが記されていましたが、それはただ世の中の人と仲良くすべきだということだけだったのです。

#### 【備考】

神の十戒は出エジプト記20, 2-17、申命記 5, 6-21に基づく。

## 2 解釈第一面碑文（第一面の碑文を解釈する）

#### 【校異】

『天主聖教実録』は「解釈第一面碑文章」に作る。

或曰、尊言第一面碑文、惟奉敬天主之事。希乞詳示。答曰、内有三条事情。第一条要誠心奉敬一位天主、不可祭拜別等神像。若依此戒而行、則是奉敬天主、一則当奉敬一位天主。世人皆知敬其親長、然敬天主当勝於敬親長之礼矣。何則。天主甚是尊大、勝於親長、是以当誠敬也。

#### 【校異】

『天主聖教実録』は「希乞詳示」を「乞詳示」に作る。

『天主聖教実録』は「第一条要誠心奉敬一位天主」を「第一条要誠心奉敬一天主」に作る。

『天主聖教実録』は「一則当奉敬一位天主」の九字が無い。

『天主聖教実録』は「然敬天主当勝於敬親長之礼矣」を「然敬天主当勝於敬親長之礼」に作る。

『天主聖教実録』は「勝於親長」を「勝于親長」に作る。

#### 【現代語訳】

ある人が言った、「あなたは第一面の碑文は、ただ天主を敬い奉ることだけだとおっしゃいました。どうか詳しく教えてください」と。答えて言う、「内には三条のことがあります。第一条は心から一人の天主を敬い奉るべきで、別な神像を祭り礼拝してはいけないということです。もしこの誠めによって行うなら、それが敬い奉るということで、一つには一人の天主を敬い奉るべきだということなのです。世の中の人々は皆、その父母や年長者を敬うということを知っていますが、天主を敬うということは父母や年長者を敬う礼以上であるべきなのです。なぜなのでしょう。天主はとても尊く偉大であり、父母や年長者にまさっているのですから、心から敬うべきなのです」と。

【備考】

「国々の偶像は金銀にすぎず／人間の手が造ったもの。口があっても話せず／目があっても見えない。耳があっても聞こえず／鼻があってもかぐことができない。手があってもつかめず／足があっても歩けず／喉があっても声を出せない。偶像を造り、それに依り頼むものは／皆、偶像と同じようになる。」（詩編115, 4-8）

或曰、吾聞此言、甚是有理。今我欲奉敬天主、又恐違其誠。請明教我。答曰、違誠有三。不敬天主一也。不信天主事情二也。愛其親長及夫百般財物、有甚於愛敬天主者三也。

【校異】

『天主聖教実録』は「或曰、…違誠有三」を「違犯此誠者」に作る。

『天主聖教実録』は「有甚於愛敬天主者三也」を「有甚于愛敬天主者三也」に作る。

【現代語訳】

ある人が言った、「私はこのお言葉を聞いて、とても道理があると思いました。今、私は天主を敬い奉りたいのですが、一方でその誠めに違うことを恐れてもいます。どうか明らかに私にお教えてください」と。答えて言う、「誠めに違うことには三つあります。天主を敬わないことが一つ目です。天主のことを信じないのが二つ目です。その父母や年長者、さらにはさまざまな財物を愛することが、天主を愛し敬う以上であることが三つ目です」と。

或曰、不敬天主、果有幾多事情、然後謂之違誠。答曰、違誠之罪有四。敬其天地日月及諸鬼神、罪之一也。信其夜夢不祥而吉凶有兆、罪之二也。尋摺日辰而用事、罪之三也。信其占卜卦術、罪之四也。

【校異】

『天主聖教実録』は「如守此誠、不得敬天地日月及諸鬼神、夜夢不祥吉凶有兆、尋摺日辰、占卜卦術等事」に作る。

【現代語訳】

ある人が言った、「天主を敬わないのには、いったいいくつのことがあって、その後それを誠めに違うと言うのでしょうか」と。答えて言う、「誠めに違う罪には四つあります。あの天地日月やさらには諸々の靈魂や超自然的な存在を敬うのは、罪の一つ目です。あの夜の夢が不吉だからといって吉凶の予兆があったと信じるのは、罪の二つ目です。お日柄を選んで何かをするのは、罪の三つ目です。あの占いや八卦の術を信じるのは、罪の四つ目です」と。

【備考】

「預言者や夢占いをする者があなたたちの中に現れ、しるしや奇跡を示して、そのしるしや奇跡が言ったとおり実現したとき、『あなたの知らなかった他の神々に従い、これに仕えようではないか』と誘われても、その預言者や夢占いをする者の言葉に耳を貸してはならない。あなたたちの神、主はあなたたちを試し、心を尽くし、魂を尽くして、あなたたちの神、主

を愛するかどうかを知ろうとされるからである。」(Deut. 13, 2-4)

或曰、不信天主事情、謂之違誠、何也。答曰、此中違誠有三罪。世人既識天主而有真經、不肯受教者罪之一也。不信天主十一條事情、罪之二也。信徒別法教門、謂能升天、不須天主真經、救其魂靈、罪之三也。

【校異】

『天主聖教実録』は「不信天主十一條事情」を「不信天主十二條事情」に作る。

『天主聖教実録』は「救其魂靈」を「救其靈魂」に作る。

【現代語訳】

ある人が言った、「天主を信じないことを、誠めに違うと言うのは、なぜなのでしょう」と。答えて言う、「この中には誠めに違う三つの罪があります。世の中の人には天主がいて本当の經典があることを知っているのですから、進んで教えを受けようとしなないのは罪の一つ目です。天主の十一條のことを信じないのは、罪の二つ目です。他の教えや宗派を信じてそれに従い、昇天することができ、天主の真の經典を用いずに、その靈魂を救うことができると言うのは、罪の三つ目です」と。

【語釈】

〔天主十一條事情〕この十一條については、『新編天主実録』『解釈人当誠信天主事实』（『人文社会科学』第五十九号所収）に詳しい。

或曰、過愛財物親長、甚於愛敬天主、何可謂之違誠哉。答曰、此中有一罪。如人怨恨天主使己有貧難疾苦、有罪也。何也。天主似乎父師。父責其子、師責其徒、只欲使之守善進德。是以不当怨恨也。

【校異】

『天主聖教実録』は「何可謂之違誠哉」を「何可謂之違誠乎」に作る。

【現代語訳】

ある人が言った、「財物や父母や年長者を愛しすぎ、それが天主を愛し敬うより以上だと、なぜ誠めに違うということが出来るのですか」と。答えて言う、「この中には一つの罪があります。もし人が、天主が自分に貧しさや困難、悩みや痛みを与えていることを恨むならば、それは罪なのです。なぜなのでしょう。天主は父や教師に似ています。父がその子を責め、教師がその弟子を責めるのは、彼らに善を守り徳に進むことを望めばこそなのです。こういうわけで恨むべきではないのです」と。

【備考】

「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」(Mt. 6, 24)

或曰、此言誠有道理。今欲聞第二誠果何説也。答曰、第二条、戒呼請天主名字而虚發誓願。此遵第二之誠也。前之一誠教人心敬天主。今之第二誠亦教人口敬天主也。其中違誠之罪甚多、不及逐一詳告。姑揭其略耳。或虚假事情而發誓願者有罪、或誓願害人者有罪。

#### 【校異】

『天主聖教実録』は「此言誠有道理。今」の七字が無い。

『天主聖教実録』は「第二条、戒呼請天主名字而虚發誓願」を「第二条誠、母呼天主名而發虚誓」に作る。

『天主聖教実録』は「此遵第二之誠也」を「此第二誠也」に作る。

『天主聖教実録』は「前之一誠」を「前之第一誠」に作る。

『天主聖教実録』は「教人心敬天主」を「教人必敬天主」に作る。

『天主聖教実録』は「亦教人口敬天主也」を「教人口敬天主也」に作る。

#### 【現代語訳】

ある人が言った、「このお言葉には本当に道理があります。今、第二の誠めでは何を説いているのかお聞きしたいのですが」と。答えて言う、「第二条は、天主の御名を呼んでうその誓いをお願いをするのを誠めることです。これが第二の誠めを遵守することなのです。先の第一の誠めは人に心で天主を敬うことを教えていました。今の第二の誠めもまた人に口で天主を敬うことを教えているのです。その中で誠めに違う罪はとて多く、逐一詳細にお教えることができません。とりあえずその概略を挙げておきましょう。あるいはうそのことで誓いや願いを發するものは罪になりますし、あるいは誓いや願いで人を傷つけるものも罪になるのです」と。

#### 【備考】

「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(Jn.13, 34)

「子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。『父と母を敬いなさい。』これは約束を伴う最初の掟です。『そうすれば、あなたは幸福になり、地上で長く生きることができる』という約束です。」(Eph. 6, 1-3)

「両親のお陰で今のお前があることを銘記せよ。お前は両親にどんな恩返しができるのか。」(Sir. 7, 27)

「父親たち、子供を怒らせてはなりません。主がしつけ論されるように、育てなさい。」(Eph. 6, 4)

「隣人に関して偽証してはならない。」(Ex. 20, 16)

「うそをつく証人は罰を免れることはない。欺きの發言をする者は滅びる。」(Prov.19, 9)

或曰、第三之誠者何謂也。答曰、第三誠者、当礼拜之日、禁止工夫、謁寺誦經、礼拜天主。其餘時日、凡作工求利、固皆正理矣。譬如每月朔望之日、人皆作揖上官。況天主尊大、於每

七日之間、其可不拜之乎。此三者俱是奉敬天主、甚為至要也。

【校異】

『天主聖教実録』は「第三之誠者何謂也」を「第三誠者何謂也」に作る。

『天主聖教実録』は「当礼拜之日、禁止工夫、謁寺誦經、礼拜天主」を「当守瞻礼之日、禁止百工、詣天主堂、誦經瞻礼天主」に作る。

『天主聖教実録』は「凡作工求利」を「各作本業」に作る。

【現代語訳】

ある人が言った、「第三の誠めとは何を言うのですか」と。答えて言う、「第三の誠めとは、礼拜の日には、仕事を禁止し、寺に行つて經典を読誦し、天主を礼拜することです。そのほかの時には、いずれも仕事をして利益を求めても、もちろんいずれも正しいことなのです。たとえば毎月ついたちと十五日に、人はみな上官に挨拶します。まして天主は尊く偉大なのですから、いつも七日ごとに、拝まないことができるでしょうか。この三者はいずれも天主を敬い奉ることで、とても重要なのです」と。

【語釈】

〔毎月朔望之日、人皆作揖上官〕朝廷において、毎月ついたちと十五日に、官吏が皇帝に拝礼を行う儀式的のことを指すものと思われる。『大明会典』卷四十三「朔望朝儀」の項を参照（汲古書院影印『正徳大明会典』四百九十一頁、一九八九）

### 3 解釈天主第二碑文中有七条事情（天主の第二の碑文の中に七条があることを解釈する）

【校異】

『天主聖教実録』は「解釈第二面碑文章」に作る。

或曰、第二碑文有七条規誡。希乞全示。答曰、中之第四条者、当愛親敬長。此事甚重、是以占乎六条之先。蓋天主令世人和睦、況人倫之至親者、莫過於父母、是以当孝順也。子幼之時、受其鞠育之恩甚多。至於長大而不知報其恩、則虧其教養之勞矣。且禽獸尚知報本、何況於人乎。蓋為父母者亦当尽其養育之道、為師者亦当尽其教誨之道、其為尊長者亦当尽其慈幼之情、夫婦亦当尽其唱隨之義、反是俱有罪矣。如父知其子之從於惡党而不之責、師以淫穢詩詞而授於徒弟、尊長而加逆刑于奴僕、子不孝順其親、徒弟而不尊敬其師、奴僕而不奉事其家主者、俱有罪矣。

【校異】

『天主聖教実録』は「希乞全示」を「乞示」に作る。

『天主聖教実録』は「至於長大而不知報其恩」を「至于長大而不知報其恩」に作る。

『天主聖教実録』は「何況於人乎」を「何況于人乎」に作る。

『天主聖教実録』は「師以淫穢詩詞而授於徒弟」を「師以淫穢詩詞而授于徒」に作る。

『天主聖教実録』は「尊長而加逆刑于奴僕」を「尊長而加逆刑於奴僕」に作る。

『天主聖教実録』は「徒弟而不尊敬其師」を「徒不尊敬其師」に作る。

『天主聖教実録』は「奴僕而不奉事其家主者」を「奴僕不奉事其家主者」に作る。

#### 【現代語訳】

ある人が言った、「第二の碑文には七条の誠めがあります。どうか全て教えてください」と。答えて言う、「その中の第四条は、父母や年長者を愛し敬うべきだということです。このことはとても重要なので、第六条の前に置かれているのです。思うに天主は世の中の人を仲良くさせており、いわんや人間の倫理で最も親しいものとしては、父母以上のものはないのですから、孝行し従うべきなのです。子供は幼い時に、親からの養い育てる恩をととても多く受けています。成長したときにその恩に報いることを知らないのでは、その教え養ってくれたことに対するいたわりに欠けているのです。それに禽獣ですら本源（である親）に報いることを知っているのですから、まして人間ならなおさらのことです。思うに父母たるものはその養い育てる道を完全に行い、師たるものはその教え導く道を完全に行い、その年長者たるものは幼いものを慈しむ気持ちを完全に発揮し、夫婦もまたその夫唱婦隨の正しいあり方を完全にすべきであり、これらに違反することは罪なのです。もし父がその子が悪人に従っていることを知りながらそれを責めず、師がみだらでけがれた詩や詞を弟子に授け、年長者でありながら奴隷を道理に合わない刑罰にかけ、子がその親に孝行せず従いもせず、弟子でありながらその師を尊敬せず、奴隷でありながらその家の主に奉仕しないのなら、それらはいずれも罪なのです。

#### 【語釈】

「是以占乎六条之先」後出の第六条に、「第六誠行淫邪穢等事」（第六の誠めは淫らなことや邪なこと、穢れたことなどを行うことです）とある。

「報本」本源である親の恩に報いること。『礼記』『郊特牲』に、「唯社、丘乘共粢盛、所以報本反始也」（ただ社には、丘も乗も供物をささげるが、これは本源に報い始めにもどるためなのである）とある。

第五戒乱法殺人。古者天主做成世人、有如兄弟之親、故不付之利器。作之禽獸、固有長牙利爪、然人之所以異於禽獸者幾希、所以当和順也。蓋天主令人和睦、人若平心怡氣、則無殺傷之由矣。如殺人必用凶器。若遠之凶器、則無殺傷之具矣。亦猶好飲者、若遠之酒、則自無醉人矣。是以吾嘗称中華乃礼儀之邦、人無帶刀佩劍、故無殺傷之由矣。其中亦有違誠之事、或殺傷他人者、或举意欲害人者、或思欲図報冤家者、或惡語傷人者、或妬人富貴者、俱有罪矣。

#### 【校異】

『天主聖教実録』は「第五戒乱法殺人」を「第五誠毋乱法殺人」に作る。

『天主聖教実録』は「古者天主做成世人」を「天主造成世人」に作る。



『天主聖教実録』は「作之禽獸」を「造成禽獸」に作る。

『天主聖教実録』は「然人之所以異於禽獸者幾希」を「然人之所以異於禽獸者極甚」に作る。

『天主聖教実録』は「則無殺傷之由矣」を「則無殺傷之繇矣」に作る。

『天主聖教実録』は「若遠之凶器」を「若遠其凶器」に作る。

『天主聖教実録』は「若遠之酒」を「若遠乎酒」に作る。

『天主聖教実録』は「人無帶刀佩劍、故無殺傷之由矣。其中亦有違誡之事」を「人雖無帶刀佩劍、其中亦有違誡之事」に作る。

『天主聖教実録』は「或殺傷他人者」を「或打傷他人者」に作る。

#### 【現代語訳】

第五の誡めは法を乱し人を殺すことです。昔、天主が世の中の人をお作りになった時には、兄弟のような親しみがあつたので、鋭い武器をお与えにはなりませんでした。禽獸をお作りになった時には、もちろん長い牙や鋭い爪があるのですが、しかし人が禽獸と異なる点はほんのわずかなので、なごやかであるべきなのです。思うに天主は人に仲良くするようにさせたので、人がもしおだやかでやわらいでいるなら、殺したり傷つけたりする理由はないのです。もし人を殺すならば必ず凶器を用います。凶器を遠ざけるなら、殺したり傷つけたりする道具がなくなります。これはまた酒を飲むのが好きな者が、酒を遠ざけるなら、自然と酔っ払いがいなくなるようなものです。こういうわけで私は以前、中華こそは礼儀の国だと称賛したことがあるのですが、人は刀や劍を帯びていないので、殺したり傷つけたりする理由はないのです。その中にはまた誡めに違う事や、あるいは他人を殺したり傷つけたりする者や、あるいは心を動かして人を殺そうとする者や、あるいは恨みに報いようとする者や、あるいは悪口で人を傷つける者や、あるいは人が金持ちであることに嫉妬する者がいますが、それらはいずれも罪なのです」と。

#### 【語釈】

「人之所以異於禽獸者幾希」『孟子』離婁下。

#### 【備考】

「だから、あらゆる悪意、あらゆる偽り、偽善、そねみ、いっさいの悪口を捨てて、生まれたばかりの乳飲み子のように、混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。これを飲んで成長し、救われるようになるためです。(1Pet. 2, 1-2)

「陰口は食べ物のように吞み込まれ／腹の隅々に下って行く。」(Prov.18, 8)

或問曰、居官之人而刑戮其囚犯、吾不知有罪否也。答曰、世人非法殺人者有罪。若有官長依律用刑以決囚犯、蓋為万民除害、烏得言其有罪。亦猶良医為人除其壞齒、而免壞其別齒也。

#### 【校異】

『天主聖教実録』との相違点は存在しない。

### 【現代語訳】

ある人が質問して言った、「官職にいる人がその囚人を処刑したならば、罪になるのでしょうか」と。答えて言う、「世の中の人々が法に背いて人殺しをしたならば罪になります。もし長官が刑法によって囚人を処刑したならば、思うにそれは万民のために害を除いたのですから、どうして罪になると言えるのでしょうか。それはまた良医が人のためにその虫歯を抜いてやり、その外の歯が虫歯になるのを防ぐようなものなのです」と。

第六誡行淫邪穢等事。世人以色慾為重、是以設法嚴禁也。天主知人好色、方作之男婦、使人一夫一婦、行情交感、生伝子孫。人之多娶其妾者有罪。何也。妻妾衆多、必至争競、或以庶而奪嫡者有之。此所以有罪也。或奸淫他人妻子者俱有罪矣。或以男子而行淫穢者、此罪尤大。其中罪情多端、亦有解釈於第九誡之内矣。

### 【校異】

『天主聖教実録』は「第六誡行淫邪穢等事」を「第六誡母行邪淫等事」に作る。

『天主聖教実録』は「天主知人好色、方作之男婦、使人一夫一婦」を「天主初造男婦、使人一夫一妻」に作る。

『天主聖教実録』には「行情交感」の四字が無い。

『天主聖教実録』は「人之多娶其妾者有罪」を「人之娶其妾者有罪」に作る。

『天主聖教実録』は「妻妾衆多、必至争競、或以庶而奪嫡者有之」を「一女不得有二男、一男独得有二女乎。夫婦以相信故相結。信失而結解矣。況夫婦乖、妻妾妬、嫡庶争、無一可者」に作る。

『天主聖教実録』は「亦有解釈於第九誡之内矣」を「亦有解釈於第九誡之内者」に作る。

### 【現代語訳】

第六の誡めは淫らなことや邪なこと、穢れたことなどを行うことです。世の中の人々は色欲を重んじますので、法を作って厳しく禁じるのです。天主は人が好色であるのを知っていればこそ、男性と婦人をお作りになり、人を一夫一婦として、情の交感を行い、子孫を生み伝えていくようにさせたのです。人の多く妾を娶るものは罪なのです。なぜでしょうか。妻妾が多いと、必ず争いを生じるようになり、あるいは妾の子でありながら嫡男の地位を奪おうとするものが出てきます。これが罪である理由なのです。あるいは他人の妻と淫らなことをするものはいずれも罪なのです。あるいは男性でありながら淫らな行為を行うものは、その罪は最も大きいのです。これらの中の罪情はさまざまで、また第九の誡めの中にも解釈があります。

### 【語釈】

「妻子」「妻と子」ではなく「妻」（「子」は接尾語）。

「亦有解釈於第九誡之内矣」後出の第九条に、「第九誡恋慕他人妻子」（第九の誡めは他人の妻を好きになることです）とある。

第七戒人偷盜諸情、或令人偷盜、或同人偷盜、或教人兒女而偷其父母、或教人奴婢而偷其家主、或放債而倍其利息者、俱有罪矣。

【校異】

『天主聖教実録』は「第七戒人偷盜諸情」を「第七誡母人偷盜諸情」に作る。

『天主聖教実録』は「或教人兒女而偷其父母」を「或教人兒女而偷其父母之物」に作る。

『天主聖教実録』は「或教人奴婢而偷其家主」を「或教人奴婢而偷其家主之物」に作る。

『天主聖教実録』は「或放債而倍其利息者」を「或放債而倍過其利息者」に作る。

【現代語訳】

第七の誡めは人が様々なものを盗むことで、あるいは人に盗ませ、あるいは人とともに盗み、あるいは人の子供にその父母のものを盗むことを教え、あるいは人の奴隷にその家の主人のものを盗むことを教え、あるいは金を貸してその利息を倍にする者は、いずれも罪となるのです。

第八戒讒謗是非。

【校異】

『天主聖教実録』は「第八誡母讒謗是非」に作る。

【現代語訳】

第八の誡めは誹謗してもめごとを起こすことです。

【備考】

「あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。それ以上のことは、悪い者から出るのである。」(Mt. 5, 37)

第九誡恋慕他人妻子。

【校異】

『天主聖教実録』は「第九誡母恋慕他人妻子」に作る。

【現代語訳】

第九の誡めは他人の妻を好きになることです。

第十誡冒貪非義財物。

【校異】

『天主聖教実録』は「第十誡母冒貪非義財物」に作る。

【現代語訳】

第十の誡めは正しい方法で入手したのではない財物をみだりにむさぼることなのです」と。

或問曰、財物色慾、何故而重誡之也。答曰、天主明知世人以財色為重、是以重誡之也。此天

主所以作之十戒。前三条者敬乎天主事情、後七条者益乎世入事情也。

【校異】

『天主聖教実録』は「此天主所以作之十戒」を「此天主所以作之十誡」に作る。

【現代語訳】

ある人が質問して言った、「財物と色欲とは、なぜ重ねてそれを誡めたのでしょうか」と。答えて言う、「天主は世の中の人々が財物と色欲とを重ねていることをよく知っているので、重ねてそれを誡めたのです。これが天主が十戒を作った理由なのです。前の三条は天主を敬うということ、後の七条は世の中の人に利益のあることなのです」と。

#### 4 解釈僧道誠心修行升天之正道（まごころから修行して昇天する正道について僧が言うのを解釈する）

【校異】

『天主聖教実録』は「解釈天主勸諭三規章」に作る。

僧曰、前言十誡、教人遵守、人若違誡、則置之地獄矣。予今告汝以奇教之事。

【校異】

『天主聖教実録』にはこの二十九字が無い。

【現代語訳】

僧が言った、「前に述べた十戒は、人に遵守するように教え、人がもし誡めに違うなら、彼を地獄に置くのです。私は今あなたにすばらしい教えのことを告げましょう」と。

或曰、奇教果有幾多条件。幸乞指示。答曰、其中事情多端、難以尽挙。姑掲三者而言之。世界惟有三事、得以誘人作罪。一者自専、二者貪色、三者貪財。是以天主講道、勸人守此三教。一者凡事不可縦性自専、須從尊長之命令。二者無慾。三者絶無私財。

【校異】

『天主聖教実録』は「奇教果有幾多条件。幸乞指示」を「尊師前言勸諭三規、何如」に作る。

『天主聖教実録』は「其中事情多端、難以尽挙」の十字が無い。

『天主聖教実録』は「姑掲三者而言之」を「掲三者而言之」に作る。

『天主聖教実録』は「是以天主講道、勸人守此三教」を「是以天主勸諭修道之人守此三規」に作る。

【現代語訳】

ある人が言った、「すばらしい教えにはいったいいくつの条件があるのですか。どうかお教えください」と。答えて言う、「その中のことはさまざまで、全部を挙げるのは難しいのです。とりあえず三つを挙げて言っておきましょう。世界ではただ三つのことが、人を罪をなすよ

うに誘うことができます。一つ目は独断専行、二つ目は色欲をむさぼることで、三つ目は財物をむさぼることです。こういうわけで天主は道を講じる際に、人にこの三つの教えを守るよう勧めるのです。一つは何事も自分勝手に独断専行してはならず、年長者の命令に従わなければならないということです。二つ目は無欲です。三つ目は絶対に私財を持たないということです」と。

或問曰、世人若無尊長在上、而拳意作事、亦有財産家業、亦有娶妻繼嗣、吾不知有罪否也。答曰、若人未入教門出家者、則是無罪。若既出家、或自私財物、或娶妻繼嗣者、其罪甚大、不可言矣。人若棄其財色、專一奉事天主者、尤勝乎娶妻求財之輩矣。

【校異】

『天主聖教実録』は「若人未入教門出家者」を「若人非専務修道者」に作る。

『天主聖教実録』は「若既出家」を「若既専務修道」に作る。

『天主聖教実録』は「人若棄其財色」を「人若絶其財色」に作る。

『天主聖教実録』は「尤勝乎娶妻求財之輩矣」を「甚勝乎娶妻求財之輩矣」に作る。

【現代語訳】

ある人が言った、「世の中の人がもし年長者が上にいることもなく、心の赴くままに行動し、財産や家業があったり、妻を娶り後継ぎがいたりするのなら、罪となるのでしょうか」と。答えて言う、「もしその人がまだ教門に入って出家していないのなら、罪はありません。もしもう出家しているのに、財物を私有していたり、妻を娶り後継ぎがいたりするのなら、その罪はとても大きく、言い表すことができないほどです。人がもしその財産や色欲を捨てて、専一に天主を奉りお仕えするならば、妻を娶り財産を求める人々にととてもまさっているのです。

人若守此三事、則得正道升天矣。是以我等之為僧者、固守此三事。一者住集于寺中、凡事請命於寺長、而飲食日用之物、無別尊卑。二者不思色慾。三者不思財利、化縁以資其日用。此所以一心奉敬天主也。

【校異】

『天主聖教実録』は「人若守此三事、則得正道升天矣」を「守此三規、則易得道升天矣」に作る。

『天主聖教実録』は「是以我等之為僧者」を「是以我等脩道者」に作る。

『天主聖教実録』は「固守此三事」を「固守此三規」に作る。

『天主聖教実録』は「一者住集于寺中」を「一者住集於会中」に作る。

『天主聖教実録』は「凡事請命於寺長」を「凡事請命於会長」に作る。

『天主聖教実録』は「而飲食日用之物、無別尊卑」の十一字が無い。

『天主聖教実録』は「化縁以資其日用」を「以資其日用」に作る。

### 【現代語訳】

人がもしこの三つのことを守るならば、正道を得て昇天するのです。こういうわけで我等のような僧である者は、この三つのことを固く守るのです。第一に寺（修道院）に集まって住んで、すべてのことにおいて寺長（修道院長）の指示を仰ぎ、飲食物や日用品について、尊卑の区別はないということです。第二に色欲について考えないことです。第三に財産や利益のことを考えず、寄進を日常生活の元手とすることです。これが一心に天主を敬い奉る理由なのです」と。

### 【備考】

イエズス会会憲による。個人の財産所有権をささげることによる清貧への奉献、総長への従順を迅速に果たし、またこれを保持することが義務づけられている。『イエズス会の歴史』ウィリアム・V. バンガート 著；上智大学中世思想研究所 監修、2004年 原書房、22頁。

## 5 解釈浄水除前罪（浄水で以前の罪を除くことを解釈する）

### 【校異】

『天主聖教実録』は「解釈聖水除罪章」に作る。

或曰、前言十条規誡三条奇教、則吾既得聞命矣。敢問、七条沙革面多、果何説也」と。答曰、七条事情甚多、且難一言而尽。必須後來著書明示、方可解明。今且挙其至要之一事而言之。吾天竺国称曰矛低是磨。人欲進天主之教門者、則請教門之僧、代誦經文、以其天主聖水、而与之淨首。既得天主聖水、則前日之罪惡尽棄、方識其天主而升天庭矣。其餘邪魔諸神、不敢侵近。至於死後、則升天堂受福矣。若未受淨首之先、魂靈穢濁、罪惡多端。彼時事邪魔如君王、与天主為仇怨。及其死後、則魂進於地獄、而同魔鬼相親矣。世人若欲升天受福、必從此教、方得天主之力矣。

### 【校異】

『天主聖教実録』は「前言十条規誡三条奇教」を「前言十条規誡三条勸諭」に作る。

『天主聖教実録』は「敢問、七条沙革面多」を「問、七条撒格辣孟多」に作る。

『天主聖教実録』は「吾天竺国称曰矛低是磨」を「經文称曰保弟斯摩、訳言領受聖水」に作る。

『天主聖教実録』は「人欲進天主之教門者」を「人欲進天主教者」に作る。

『天主聖教実録』は「則請教門之僧、代誦經文」を「則請伝教先生、誦經文」に作る。

『天主聖教実録』は「則前日之罪惡尽棄」を「則前罪尽洗」に作る。

『天主聖教実録』は「以其天主聖水、而与之淨首」を「以天主所立之聖水与之」に作る。

『天主聖教実録』は「方識其天主而升天庭矣」を「方可升天」に作る。

『天主聖教実録』は「其餘邪魔諸神、不敢侵近」を「其餘邪魔惡神、難以侵近」に作る。

『天主聖教実録』は「至於死後、則升天堂受福矣」の十一字が無い。

『天主聖教実録』は「若未受浄首之先、魂靈穢濁」を「若未領聖水之先、靈魂穢濁」に作る。  
『天主聖教実録』は「彼時事邪魔如君王、与天主為仇怨」を「彼時事邪魔如君主、与天主為讐怨」に作る。

『天主聖教実録』は「而同魔鬼相親矣」を「而与魔鬼同群矣」に作る。

『天主聖教実録』は「方得天主之力矣」を「方得天主之恩」に作り、その後「所以宇内万民、皆当認生我御我之大原大主、而虔奉之、万不容緩也。天主聖教実録終」の三十四字が有る。

#### 【現代語訳】

ある人が言った、「先に十条の誡めと三条のすばらしい教えとおっしゃってくださいましたので、私はすでにお教えを受けることができました。失礼ながらおたずねしますが、七条のサクラメントは、いったい何を説いているのでしょうか」と。答えて言う、「七条のことはとても多いので、とりあえず一言では言い難いのです。必ずや後で書物を著して明示してこそ、解明することができるのです。今、とりあえずもっとも重要な一つのことをとりあげて言ってみましょう。わが天竺国ではバプティズム（矛盾是磨）と言っています。天主の教門に入りたい人は、教門の僧にお願いして、代わりに経典の文を朗読してもらい、その天主の聖水を、彼に与えて洗礼するのです。天主の聖水を得たならば、昨日までの罪惡は尽く棄て去られ、その天主を認識して天国に昇ることができるようになるのです。その他の邪惡な魔やさまざまの神は、その人に近づこうともしません。死後になると、天国に昇って幸福を授かるのです。まだ洗礼を受けていない時などは、靈魂は穢れ濁っており、罪惡は多いのです。その時には邪惡な魔にまるで君主のように仕えており、天主とは仇敵なのです。その死後になると、魂は地獄に進み、惡魔と親しみあうのです。世の中の人々がもし昇天して幸福を授かりたいのならば、必ずこの教えに従ってこそ、天主のお力を得ることができるのです」と。

#### 【備考】

「イエスはお答えになった。『はっきり言うておく。だれでも水と靈とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。』」（Jn. 3, 5）

「それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。」（Rom. 6, 3-4）

「この秘跡の効果は、すべての現在と自罪とすべての罰の赦しである。」フィレンツェ公会議『アルメニア人に対する教令』（DS1316）

洗礼を受けたものが「天国にはいることを妨げるものは何一つとしてない。」トリエント公会議第5総会（1546年6月17日）現在についての教令（DS1515）

客于是歛手叩謝曰、吾而今誠信真有一位之天主矣。況尊師遠方而來、伝授此旨、使天主之名、益著於中国、人人皆善而無惡、至死魂靈升天、實我世人之大幸也。尚容虔誠進教門、惟尊師不棄、則吾輩受福多矣。謝謝。

【校異】

『天主聖教実録』にはこの八十四字が無い。

【現代語訳】

客はそこで拱手、叩頭して感謝して言う、「私は今、本当に一人の天主がおられることを心から信じます。まして尊師は遠方から来られ、この教えを伝授され、天主の御名を、中国において益々有名にされ、人々はみな善であり悪はなく、死ねば靈魂は昇天するようにされたのですから、本当に我々世の中の人々の大いなる幸せです。さらに教門に敬虔に真心より進むのをお許しになられ、尊師がお見捨てになられなければ、我々は非常な幸福を授かるのです。ありがとうございます」と。

【語釈】

〔歛手〕拱手。手を体の正面で組んで相手への敬意を表す中国式のあいさつ。

## 附録 祖伝天主十誡（祖先の伝えた天主の十戒）

【校異】

本編は、『新編天主実録』には附載されているが、『天主聖教実録』には附載されていない。以下、【校異】においては、『新編天主実録』本文の類似の語句との校異を掲載する。

一、要誠心奉敬一位天主、不可祭拝別等神像。

【校異】

『新編天主実録』「解釈第一面碑文」に、「第一条要誠心奉敬一位天主、不可祭拝別等神像」（第一条は心から一人の天主を敬い奉るべきで、別な神像を祭り礼拝してはいけないということです）とある。

【現代語訳】

第一に、心から一人の天主を敬い奉るべきで、別な神像を祭り礼拝してはいけない。

二、勿呼請天主名字、而虚發誓願。

【校異】

『新編天主実録』「解釈第一面碑文」に、「第二条、戒呼請天主名字而虚發誓願」（第二条は、天主のお名前を呼んでうその誓いとお願いをすることを誡めることです）とある。

【現代語訳】

第二に、天主のお名前を呼んでうその誓いとお願いをしてはいけない。



三、当礼拝之日、禁止工夫、謁寺誦經、礼拝天主。

【校異】

『新編天主実録』「解釈第一面碑文」に、「第三誡者、当礼拝之日、禁止工夫、謁寺誦經、礼拝天主」（第三の誡とは、礼拝の日には、仕事を禁止し、寺に行つて經典を読誦し、天主を礼拝することです）とある。

【現代語訳】

第三に、礼拝の日には、仕事を禁止し、寺に行つて經典を読誦し、天主を礼拝する。

四、当孝親敬長。

【校異】

『新編天主実録』「解釈天主第二碑文中有七条事情」に、「中之第四条者、当愛親敬長」（その中の第四条は、父母や年長者を愛し敬うべきだということです）とある。

【現代語訳】

第四に、父母に孝行し年長者を敬うべきだ。

五、莫乱法殺人。

【校異】

『新編天主実録』「解釈天主第二碑文中有七条事情」に、「第五戒乱法殺人」（第五の誡めは法を乱し人を殺すことです）とある。

【現代語訳】

第五に、法を乱し人を殺してはいけない。

六、莫行淫邪穢等事。

【校異】

『新編天主実録』「解釈天主第二碑文中有七条事情」に、「第六誡行淫邪穢等事」（第六の誡めは淫らなことや邪なこと、穢れたことなどを行うことです）とある。

【現代語訳】

第六に、淫らなことや邪なこと、穢れたことなどを行つてはいけない。

七、戒偷盜諸情。

【校異】

『新編天主実録』「解釈天主第二碑文中有七条事情」に、「第七戒人偷盜諸情」（第七の誡めは人が様々なものを盗むこと）とある。

【現代語訳】

第七に、様々なものを盗むことを誡める。

八、戒讒謗是非。

【校異】

『新編天主実録』「解釈天主第二碑文中有七条事情」に、「第八戒讒謗是非」（第八の誡めは誹謗してもめごとを起こすことです）とある。

【現代語訳】

第八に、誹謗してもめごとを起こすことを誡める。

九、戒恋慕他人妻子。

【校異】

『新編天主実録』「解釈天主第二碑文中有七条事情」に、「第九誡恋慕他人妻子」（第九の誡めは他人の妻を好きになることです）とある。

【現代語訳】

第九に、他人の妻を好きになることを誡める。

十、莫冒貪非義財物。

【校異】

『新編天主実録』「解釈天主第二碑文中有七条事情」に、「第十誡冒貪非義財物」（第十の誡めは正しい方法で入手したのではない財物をみだりにむさぼることなのです）とある。

【現代語訳】

第十に、正しい方法で入手したのではない財物をみだりにむさぼってはいけない。

右誡十条係古時天主親書降、令普世遵守。順者則魂升天堂受福、逆者則墮地獄加刑。

【校異】

『新編天主実録』には類似の文は無い。

【現代語訳】

右の誡め十条は昔、天主自らがお書きになって降され、世界中の者に遵守するようお命じになったものです。順うものはその魂は天国に昇って幸福を授かり、逆らうものは地獄に墮ちて刑罰を加えられるのです。

## 附録 拝告（天使祝詞・主祷文）

【校異】

本編は、『新編天主実録』には附載されているが、『天主聖教実録』には附載されていない。また、『新編天主実録』本文にも類似の語句は見られないため、以下、校異は省略する。

仙媽利呀、天主聖母娘娘、爾有大福娠孕熱所。普世婦人惟爾最為尊大、得近天主。我聖母娘娘、為我告于天主、赦宥我等在生罪過及死後魂靈。亜明。

【現代語訳】

サンタ・マリア、天主の聖なる母よ、あなたはキリストを妊娠するという大変な幸福を得ました。世界中の婦人の中であなたこそが最も尊く偉大であり、天主に近づくことができます。わが聖なる母よ、私のために天主にお伝えして、われらの生きているときの罪過と死後の靈魂とをお赦しください。アーメン。

【語釈】

〔娘娘〕中国語で母に対する呼称。

【備考】

天使祝詞（アヴェ・マリア 2011年公式訳）「アヴェ、マリア、恵みに満ちた方、主はあなたとともにおられます。あなたは女のうちに祝福され、ご胎内の御子イエスも祝福されています。神の母聖マリア、わたしたち罪びとのために、今も、死を迎える時も、お祈りください。アーメン。」

世人大父住在天庭。我願大父名益顯揚。我願世人遵守規誡、亦如天人順從大父。我願大父副蔭乎我。我願大父賜我衣食。我願大父赦我之罪。人若害我、我亦赦之。我願大父祐我為善、不迷罪惡。我願大父掾我苦難。亜明。

【現代語訳】

世の中の人の大いなる父は天国に住まわれています。私は大いなる父の名が更に有名となることを願います。私は世の中の人々が誠めを遵守するさまが、まるで天使が大いなる父に従うかのようなことを願います。私は大いなる父の余慶を得ることを願います。私は大いなる父が私に衣食を賜うことを願います。私は大いなる父が私の罪をお赦しくださることを願います。人が私を傷つけたとしても、私はそれでも彼を赦します。私は大いなる父が私を助けて善をなさせ、罪惡に迷わないようにさせてくださることを願います。私は大いなる父が私の苦難を助けてくださることを願います。アーメン。

【備考】

主の祈り（2000年カトリック公式訳）「天におられるわたしたちの父よ、み名が聖〔せい〕とされますように。み国が来ますように。みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。わたしたちを誘惑におちいらせず、惡からお救いください。」